



在宅でのQOLを支える多彩な訪問サービス

Part 2

訪問理美容は医療や介護との連携が不可欠 福祉を学び、地域連携ができるような人材育成を

内閣府認証NPO法人 日本理美容福祉協会 理事長 鈴木 心一 氏



いかがでしょうか。
鈴木 恐らく2000年設立の我々の活動が、走りではなかったかと思うのですが、やはり業界全体としても、これから到来する超高齢社会に向けて訪問理美容の必要性に対する意識は非常に高まっていると感じています。例えば組合でもハートフル美容師、ケア理美容師といった形で訪問理美容師の育成に取り組んでいますし、ほかにも組織的に訪問理美容サービスを展開しているNPO法人等があります。

関連団体とさまざまな形で接点を持つことで、さまざまな展開が考えられると思っています。■このような幅広い活動を通して、改めて訪問理美容サービスの意義をどのように感じていますか。

鈴木 少し古い話ですが、ずっと以前は施設での理美容サービスはそれこそ「短ければいい」という感覚があつて、極端な例ではみんな刈り上げにしてしまつていたような時代もありました。しかし、髪が伸びたから切るといふのは訪問理美容がやることのほんの一部に過ぎません。私が思うこのサービスの最大の意義は、元気になるためのお手伝いができる、ということだと思います。髪を切り、ちょっと口紅をさすことによつて、ほとんど話すことのないお年寄りが話しかけようとする、といったことを私たちはよく経験します。おばあちゃんがいかに周りから「きれいだね」と言われて、そのことで人に会いたくなり、おしゃべりがした

くなる。生きることには積極的になれるようなお手伝いができるところに、訪問理美容の「地域福祉」としての意義がある、そんなふうを感じています。

訪問理美容サービスは、カットはもちろんパーマもカラーも、店舗でできることは全てできます。中には訪問先でセットレコーダーを持ち込んで、音楽を流し、周りを花で飾り、アロマの香りを漂わせて、まるで美容室にいるような感覚で楽しんでもらえるよう工夫している福祉理美容士もいます。現場では皆それぞれに工夫を凝らして、元気になること、楽しく過ごせることを支えている。そうやって、少しでも地域福祉に貢献したいというのが私たちの願いです。

最後に、訪問理美容サービスの課題と今後の取り組みについてお聞かせ下さい。
鈴木 現在、訪問理美容サービスは都道府県や市区町村より「理髪券」といった形で助成を頂いていますが、地域に



よつてはその理髪券の利用に強い規制がかかっています。よくお客様からも、美容室なら行きつけの店へ通うのが普通なのに、訪問になるとどうして「ここしかだめ」と限定されるのか、と言われます。お客様の要望に沿うために、そして訪問理美容サービスの普及のためにも、理髪券はフリーアクセスが望ましいのではないのでしょうか。
また、今後の取り組みとして私たちがさらに重要と考えているのが、冒頭にも申し上げた教育事業です。訪問理美容サービスは昔に比べれば供給は増えてきましたが、それは言ってもこれから高齢者が膨大な数になる中で、対応しきれないかと言えはまだまだ厳しいと思います。まずは訪問理美容ができる人材を育てるだけ多く輩出していかねばなりません。そこで協会では昨年より理美容学校と提携し、学校教育の中に福祉のカリキュラムに取り入れて頂く活動を始めました。現状で提

■生活支援は地域包括ケアの一翼を担う重要なサービス
病気や障害を抱えながら在宅生活を継続するためには、24時間365日の医療と介護が不可欠であることは言うまでもない。しかし、一人の生活者としての暮らしは決してそれだけで成り立つものではなく、見守りや配食といった多様な生活支援が必要に応じて届くかどうか非常に重要となってくる。

地域包括ケアシステムとは、それらの支援が切れ目なく提供されるよう、種々のサービスをつなぎ、必要とする人に包括的かつ継続的に提供できるような仕組みを、日常生活圏域で構築することを主旨としている。あらゆる地域資源の連携、およびその活用が求められるこれからの地域包括ケア時代には、医療や介護に携わる人々が幅広いサービス

に連携を図っていくことが不可欠であろう。
そこで本特集では、「在宅でのQOLを支える多彩な訪問サービス」と題し、地域包括ケア時代において重要な役割を担うと考えられる3つのサービスに焦点を当てた。

PART2は「訪問理美容」である。最近では介護施設の中に理美容室が設置されているところも増えてきており、理美容が重要な生活支援サービスの一つであるとの認識は広く浸透してきたと言える。今回は、訪問理美容サービス普及の一翼を担ってきた全国組織「日本理美容福祉協会」の活動に焦点を当て、訪問理美容サービスの実際と介護職との連携、さらには同協会が近年とくに力を注いでいるという「福祉理美容士」の教育事業について、理事長の鈴木氏に詳しく聞いた。

の必要性をよく理解し、柔軟